

# 保育かながわ

発行所  
横浜市神奈川区沢渡4の2  
一般社団法人  
神奈川県保育会  
発行人  
萩原敬三  
題字  
故内山岩太郎筆

今年の保育事業大会は半世紀を超えて一世纪に向け歩みはじめました。「すべての人が子どもと子育てにかかわりを持つ社会の実現をめざして」の主題のもと、平成二十九年四月二十二日(土)に神奈川県社会保障会館において開催されました。当日は県内各地域より大勢の皆様にご参加を頂き盛大に執り行うことができました。式典は、伊澤副理事長の開会のことばに始まり、出席者全員で「花のおさなご」の斎唱と、「児童憲章」の朗読がされました。その後、主催者の萩原理事長より保育を取り巻く環境の変化やエキスパート人材育成など今現在の動向をまじえながら挨拶がなされました。

続いて、永年勤続者表彰式が行われ六十五名の方に賞状と記念品が授与されました。

## 第五十一回

### 神奈川県保育事業大会



神奈川県県民局次世代育成部長石渡美枝子氏、神奈川県議会議長森正明氏、神奈川県児童福祉審議会委員長松田良昭



氏、神奈川県市長会会長秦野市長古谷義幸氏、神奈川県保育士養成施設協会会长横浜女子短期大学学長平野建次氏よ

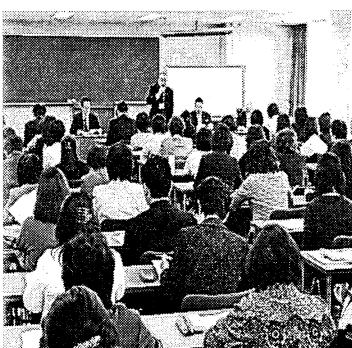
り、それぞれご祝辞を頂戴し、保育士会の荻原会長による閉会のことばにより閉会しました。

神奈川県保育事業大会終了後、一般社団法人神奈川県保育会の総会が開催され、会員の出席者及び委任状による議決権の過半数が確認され総会

が進行されました。

総会次第に従つて萩原理事長のあいさつ、議長選出、議事録署名人の選任がおこなわれ、議事に移りました。報告事項では、平成二十八年度事業報告及び決算報告について説明があり、その後に議事についての審議に入り全ての審議項目が承認されました。

引続き監事監査報告も行われ監事より適正に処理された事を認めた報告がなされました。また、平成二十八年度には箱根において第五十七回関東ブロック保育研究大会が開催され大会実行委員の皆様のご協力に感謝の言葉がありました。最後に会場出席者にその他事項で意見等を求めましたが特に提案もなく保育会が閉会されました。



## 第一会場

第一会場では三つの研究発表が行われました。

道場へ。本年度の指導・栽培の  
食材、人材を活用しての食  
育実践」とのテーマで伊勢  
原市保育協議会保育土部会保  
育内容研究会の発表が行われ  
ました。二名の発表者による  
食育実践の取り組みについて  
四つの目的、実践、考察と分か  
れており、映像では市のイメ  
ージキャラクターを所々活用  
しながらの発表となりました。



作りに発展した点も保育の繫がりを感じました。作った教材は実物が披露され大きさや使い方の説明でより身近に感じました。

特に地域の食文化継承では、名物の「豆腐」が給食や家庭で身近に使われている点に着目し、伊勢原のキャラクターが豆腐作りを体験することで、味関心がより高まり地域食材

感触合いながら体や目で見る等実体験の報告と感謝や結びつきの大切さが詰まつた保育園ならではの楽しみながらの工夫が盛りだくさんでほほえましいやり取りの映像にひきつけられました。

表となりました。三歳児から環境を通して行う実践や保育士による働きかけ、周りの人々や物についてのエピソードや考察と分かり易く分類されての発表でした。年齢ごとに情緒、仲間、祖先のコントロールについて特徴をとらえていた点はエピソード記録からも伝わってくるものの年齢の発達に合わせての発表となりました。

の良さを改めて知ることが出来、食文化を伝えることになつたことは時間を忘れるほど関心をしてしまいました。



で三名の発表者を行われました。保育士の質の向上は近年、保育園が急激に増えた中で聞かれるようになりました。「質とは何か?」と言われると答えはたくさんあります。ここでは、「みんなを楽しませる為に自分も楽しみながら保育を考えしていく姿勢を持つ!」と言う事で質の向上を考え取り組んでいます。

した。保育士が環境を整えることで一人ひとりが自信をもつて行動し見通しのある安定した保育園生活が送れるようになることを改めて感じたのではないでしようか。

三つ目は寒川三園保育士会保育内容研究会から「保育者の資質向上を図るゝ誕生会を通して考える」とのテーマ

ことにより自分の子どもの成長が身近に感じられ時間が出来たという感想が寄せられました。集団の中でも一人ひとりが大切という事を保育士同士で確認し合うことが出来、保育して行く上で原点が見え、保育士の生き生きとした笑顔が映像いっぱいに映し出され、温かい発表となりました。

## 家庭との連携や子どもの活

がありました。

## 一人ひとりの子どものための

## 第一会場

第二会場では、「配慮を必要とする子どもや家族への支援に向けて」の研究テーマに沿つて、茅ヶ崎市保育士会内容研究会と南足柄市保育士会が発表を行いました。



茅ヶ崎市保育士会内容研究会は「子どもの育ちと保護者への関わり」というテーマで、市保育課主催の研修や市内保育園を巡回指導している林先生のアドバイスを頂きながら連携、情報の共有をし、子ども

の関わりに統一した理解をして一人ひとりの育ちを丁寧に

見た発表でした。  
子どもの姿として好奇心旺盛、衝動的な行動が多く、視覚ににくい子ども、色の認識が弱い等が問題点として取り上げられました。

問題点を見つめ、家庭での様子、支援、考察する中で課題の設定を行つてきました。

多種類のカードの活用や言葉かけの工夫等を行つたこと。

また、不安や悩みをもつた保護者の気持ちを汲み取り、どの様な対応をして行くかへと繋げました。

そのひとつ試みとして気軽に子どもの育ちに参加出来

る様なゆさぶりあそび、くすぐり遊びなどの紹介です。未だ遊ぶ神経や共有関係を豊かにする大切な遊びであり、愛情豊かな親子の関係作りにはればとの思いから、遊びの冊子を作つて配ることにしました。時代の流れや、家族構成も複雑化し、指導の困難さもある中、担当者が問題を一人で抱え込み、園全体で話し合い、関連機関との連携を密にして、その子や家庭に合った支援をし、過ごしやすい環境を整えていく事が大切であると感じ、これからも保護者とともに子供たちの成長を見守つていきたいという有意義な研修内容でした。



次に「具体的な支援を行うために」というテーマで南足柄市保育士会の発表がありました。

市内各園の職員に気になる子どもの姿、対応で悩んでいることについてアンケートを実施しました。

保育者が感じている実態を把握し、情報を共有することにより、お互いの保育の質を高め安全な環境の中、安心して集団生活を送れる援助を目指しました。気になる子どもたちの姿として、「思い通りにならないと泣く」「集団の行動が出来ない」「コミュニケーションが取れない」「説明をしても理解力に欠ける」「気を引こう



としてわざと泣く」などで、保育者の悩みもそれらの子どもに対しての、対応の仕方、声のかけ方、援助の仕方等でした。各事例に対し、どの様に子どもや保護者の理解を進め支援して行けば良いか具体的な記述を行い、その事例に関するグループワークを行いました。対応として一対一での関わりが出来るように見届ける、促す、褒めることで自信に繋げる。次の行動を事前に伝え見通しが立つようにする。手先や身体を使った遊びを多く取り入れる。友だちや保育者との楽しいやりとりコミュニケーションを増やしていくなどを紹介しました。発達を支援する楽しい運動遊びの紹介もある発表でした。

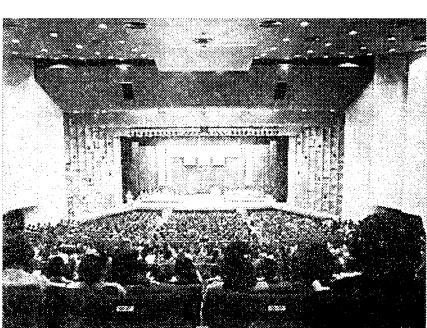
# 第58回

## 関東ブロック保育研究大会

昨年度の神奈川大会にて開催旗を受け取った茨城県保育協議会が開催する茨城大会が平成二十九年七月六日(木)～七日に、水戸市の茨城県民族文化センター大ホールをメイン会場に開催されました。

大会初日のオープニング・アトラクションは、水戸出身シンガーソングライターの磯山純氏による優しく、力強い歌声から始まりました。

開会式では、大会委員長である茨城県保育協議会会长の清水会長の歓迎の言葉の後に、



決議宣言により開会式が閉会されました。



その後の基調講演では、京都大学名誉教授の鯨岡峻氏による『「接面」での子どもの心の動きをエピソードに綴る－子どもの心を育てる保育のために』との講演で、子どもと保育士の間に成り立つ空間の中、気持ちの共感をし、子ども朗読が行われました。

次に、主催者を代表して茨城県副知事山口やちゑ氏、関東ブロック保育研究大会委員長である茨城県保育協議会会长の清水会長の歓迎の言葉の後に、物故者への黙祷、児童憲章の朗読が行われました。



初めて関東ブロック保育研究大会に参加し、とても有意義な大会であることを実感しました。また、二日目の分科会では、議長という大役を仰せつかり、緊張と躍動のなか当日を迎えました。大会には車

～七日に、水戸市の茨城県民族文化センター大ホールをメイン会場に開催されました。大会初日のオープニング・アトラクションは、水戸出身シンガーソングライターの磯山純氏による優しく、力強い歌声から始まりました。

また来賓の方々を代表して、全国保育協議会会长の万田康氏より祝辞の後、来賓・主催者の紹介がされ、最後に茨城県保育協議会理事であり実行委員長の石橋豊美氏による大会

東ブロック保育協議会副会長佐野健一氏の挨拶のあと開催市の水戸市長高橋靖氏より挨拶をいただきました。

また来賓の方々を代表して、佐野健一氏の挨拶のあと開催市の水戸市長高橋靖氏より挨拶をいただきました。

まことに、この条件で、中で私たちがこうしてこの会場で出会ったのは「めったにない縁」であるからこの出会い・この時間を大切にし、幸せを感じましょうという有り難いお話を聞く事が出来ました。

翌日は各会場に分かれて各地の代表による研究発表がなされました。神奈川県からは、議長に秦野市のにこにこ保育園梅原園長、発表に伊勢原市保育内容研究会と茅ヶ崎市保育士会保育内容研究会の皆さんが発表されました。

都県市の代表による研究発表がなされました。神奈川県からは、議長に秦野市のにこにこ保育園梅原園長、発表に伊勢原市保育内容研究会と茅ヶ崎市保育士会保育内容研究会の皆さんが発表されました。

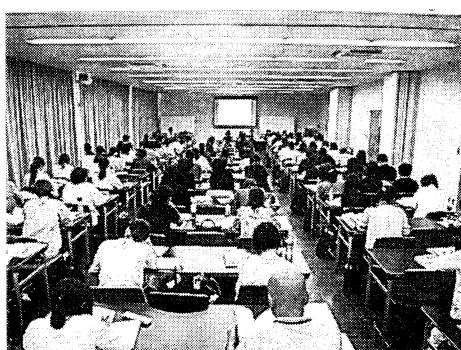
が終了しました。



を使って行きましたが、高速網がよく整備されていたので二時間半で着き、大会開始までの時間を周辺散策と、分科会会場の確認に費やすことができました。運良く、神奈川の一団に会えた時はホッとし、思わず昼食にウナギ定食を頼んでしまいました。

夕方に行われた分科会打ち合わせでは、各地区の代表者の先生方と、明日の発表順と意見発表の内容確認、助言者の意見などの摺り合わせを行ったと思える会にしていくことを目標に、全員が笑顔で帰宅できるように会を進めることにしました。

次に「保育の営みをいかに社会



等をもらい、テーマの「保育の社会化に向けて（保育の営みをいかに社会に発信するか）について、講話を四十五分ほどして頂きました。

発表内容は、「最高の町づくり」（子育て支援の可能性）東京都日の出町は、子育て支援を核に、地域・町全体で子育てをしようとする策を講じている内容でした。策としては、地域の保育所四園で「マウンテンズ」というグループサウンズを作つて、土日に音楽活動のイベントを行い、親子の触れ合い遊びを通して子育て支援につなげるものでした。

保育の社会化という観点からすると、新しい切り口のように思いました。

発表は、各グループの持ち時間三十分、午前中に四グループ十五分以内で行いました。その後、助言者の清山玲（茨城大学人文社会科学部法律経済学科教授）より評価や意見等をもらいました。

三番目は、「保育の営みの重要性を発信する」（学生に向けての取り組み）栃木県小山市は、中学生・高校生・大学生・専門学生に保育者体験をしてもらいました。保育所の営みや役割を理解してもらい、将来の保育士、親になつた時の子育て感を培わせる内容でした。学生に保育者体験をさせることは、子育てに対する規範が育む内容でした。

京都日の出町は、子育て支援を核に、地域・町全体で子育てをしようとする策を講じてきました。そこで、地域の子育てを地域全体、社会全体で取り組めるような策を一生懸命行つていていることが理解できました。また、助言者の清山先生の講話では、保育園が保育の重要性を強くアピールし、保育園の営みや保護者と子どもの声や姿を社会に発信することがとても大切であると力強く話されていました。

今回議長をして感じたこと

### 一般社団法人神奈川県保育会定時総会

日時 平成30年3月8日（木）16時～  
場所 神奈川県社会福祉会館2階第1会議室  
議題 （1）事業計画及び予算案について  
（2）その他

（秦野にこにこ保育園長梅原）  
理事長を行つにあたり、萩原理事長をはじめ、諸先生方の応援に感謝申し上げます。

ありがとうございました。  
（秦野にこにこ保育園長梅原）

は、テーマである保育の社会化を進めるこの重要なボイントとして、保育園が地域社会と共存しながら、援助者である応援者をいかに増やすか。そして子育ては、親・保育園・地域の人々の三つ巴で行っていくことが、とても大切なことではないかと実感し、良い勉強になりました。

議長を行つにあたり、萩原理事長をはじめ、諸先生方の応援に感謝申し上げます。

## 保育かながわ

## 発表を終えて

今年度、関東ブロック保育研究大会（茨城県）で発表させて頂く機会を頂きました。テーマは、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」でしたが、事前の資料で、九つあるテーマの中では参加人数が最多の約二五〇人と記入されており、関心のあるテーマであると感じながらの発表となりました。

発表者は千葉県市原市、新潟県津南町、そして私達茅ヶ崎市でしたが、全ての発表内容は配慮を必要とする子どもたちの事例発表でした。どの発表も保育の中で試行錯誤しながら工夫をして、保育をしている事がとても良く伝わりました。私たちの今回の研究にあたっては、茅ヶ崎市在住で子どもの発達に詳しい林美先生にアドバイスを頂き、約二年間、三園の事例を研究しました。A君は衝動的な行動が多く、落ち着きがない。B君は言葉でのコミュニケーション

認識が弱いなど、それぞれのとりに合わせた支援を丁寧に見つめ、より良い支援を行い、又エピソードを交えて研究をしてきました。それと同時に保護者の声に耳を傾け、一緒に考えていました。年齢やクラスの雰囲気等必ずしも一緒でない為、同一には考えられませんが、地道に保護者との関係を作っていくことが大切だと改めて感じた研究となりました。発表後の質疑応答では沢山のご質問を頂き、参加者の関心の高さを実感しました。その中でも茅ヶ崎市が独自で行っている特別支援保育コードイネーティーについての質問があり、研修会に参加して市から任命されている事や園内・園外での仕事内容等の説明をしました。

午後からは、助言者の新井先生より発表の講評、そして会場からの質問にも答えながら、支援を必要な子どもへの援助の仕方（特に大切である食事・睡眠・遊びのサイクルを



(茅ヶ崎市保育内容研究会)

しっかりとつくるてあげる等)や保護者への対応の具体的なポイントの話しがありました。

最後に、私たちの作成した

別資料として準備した【ふれあい遊び】の冊子について話をして頂きました。「このぐらいのボリュームの冊子を親子の関わり編や戸外で遊べる編など、これからも小出しで作成出来れば、より良いのではないか」との助言を頂きました。この研究を通して学んだ事を、今後も保育に活かしながら子ども達の成長を見守つたりたいと思います。発表という貴重な経験をさせて頂いたことに、心から感謝しています。

今回は弁護士法人マネジメントコンシェルジュ・弁護士の村上元茂氏に「苦情処理とその対応」というテーマで講義をしていただきました。

本研修はキャリアアップ対象研修であった事もあり、とても沢山の参加者で受付では長蛇の列が出来るほどでした。

研修内容は五つの項目があり、一、苦情の概念定義、研修の目的—クレーム処理の前提となる基本的考え方三、クレーム対応の一般的な手順四、保育園におけるクレーム対応の特殊性・困難性五、保育園におけるクレーム事例及びその対応です。

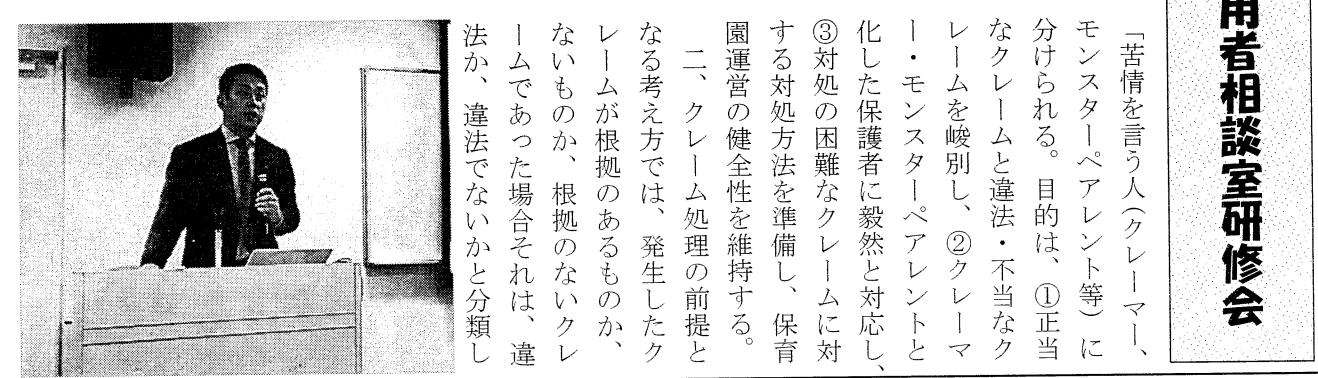
一、苦情の概念定義、研修の目的の項目では、苦情は、苦情全般としての「クレーム」と、

## 第一回 保育園利用者相談室研修会



「苦情を言う人(クレーマー、モンスター・アーレント等)に分けられる。目的は、①正当なクレームと違法・不当なクレームを峻別し、②クレームと化した保護者に毅然と対応し、③対処の困難なクレームに対する対処方法を準備し、保育園運営の健全性を維持する。」

二、クレーム処理の前提となる考え方では、発生したクレームが根拠のあるものか、ないものか、根拠のないクレームであつた場合それは、違法か、違法でないかと分類し



ていき、「根拠がなく、違法・不当なクレーム」を申し出る人に対して、毅然と対応する事が大切。法的根拠のあるクレーム要素。クレームの構成要素。保護者とクレーマー・モンスター・アレントとの見分け方。お話し後、クレーム処理に際しての基本的考え方として、対応すべき法的根拠のあるクレームや応じるべきでない違法・不当クレームについて学ぶ。

**三、クレーム対応の一般的処理手順**では、クレームの具体的処理手順としてより細かく、7つの手順に分け、ポイントを説明。本研修で一番内容が濃く、保育現場ですぐに実践できる内容。(1)クレーム発生。(2)共感、同情、相槌、謝罪の言葉。きちんとお話しを聞く気があるという姿勢を見せる。謝罪をすると、「謝ったんだから責任を認めたんだろ。要求に応じろ」など言う方もいるが、謝罪をする事と責任をとるという事は、別の話である。分けの分からない約束はしない事も大切。(3)クレー

ムの原因となつていて、事実関係の確認が極めて重要な作業で「何が不満かを絶対に聞く」クレーム申出者に対して、真摯に共感を示しつつ、適度に相槌を打ちながら最後まで聴取る事で、園の責任を判断。対応の悪さへの二次クレーム防止。保護者の言い分変遷防止。となる。(●だれが(園児・保護者)●どこで●だれにより(何により)●どの程度の損害を受けたか●損害を発見した緒緯(何時・どんな理由で)

●その状況(現在どうなつているか)の内容をクレーム受理報告書に可能な限り詳細に記述する事が大切。(4)確認した事実関係を前提とした要求内容の確認こちらも極めて重要な作業で、●クレームについてのゴールを設定し、申出者の職員が対応しても同じ処丁寧に、ハッキリ拒絶する事。(7)情報処理・再発防止の検討。どの職員が対応しても同じ処理手順、対応がとれる様、園内で浸透、統一しておく事が大切になる。

●単純非法的クレーム

●違法・不当クレーム

●違法・不法行為の事例をもとにしたグループワークを行いました。



## 第52回 神奈川県保育事業大会

日時 平成30年4月21日(土曜)午前10時より

場所 神奈川県社会福祉会館

普通の人であるが、ある日突然保護者と共有。●今後、クレームの件に関して保護者と対応していく連絡係の確認。(6)クレームの種類を判断し、適切な対応を●法的根拠のあるクレームの対応は、損害賠償もしくは、何らかの対応が必要。対応は保育士ではなく、苦情解決責任者が行う。

●事例及びその対応では、六つの事例より三種類のどのクレームになるか、またその対応はどうすべきかのお話し。その後休憩をはさみ、事例を各園の方針により異なる。園ごとにどこまで対応するか決めておく必要がある。先生により、対応がバラバラにならない様にしておくこと。

●单纯非法的クレーム

●違法・不法行為の事例をもとにしたグループワークを行いました。

本研修を終えての感想は、短い時間。要点のみの分かりやすい説明で容易に理解できました。あいまいな表現がなく、終始、園側の立場に立った言葉で、気持ちよく研修を受けることが出来ました。

然にクレーマーになる。それをするために、好き嫌いで他の保護者と対応が違う等の印象を持たれない様に、対応の仕方も統一する必要がある。

五、保育園におけるクレーム事例及びその対応では、六つの事例より三種類のどのクレームになるか、またその対応はどうすべきかのお話し。その後休憩をはさみ、事例を各園の方針により異なる。園ごとにどこまで対応するか決めておく必要がある。先生により、対応がバラバラにならない様にしておくこと。

●单纯非法的クレーム

●違法・不法行為の事例をもとにしたグループワークを行いました。

本研修を終えての感想は、短い時間。要点のみの分かりやすい説明で容易に理解できました。あいまいな表現がなく、終始、園側の立場に立った言葉で、気持ちよく研修を受けることが出来ました。

四、保育園におけるクレーム対応の特殊性・困難性では、保育園でのクレームは一回で終らずに卒園まで保護者との関係が続くこと、内容が多種多様である。殆どの保護者は普通の人であるが、ある日突然

## 保育所等職員 健康研修会

(水)に横浜市戸塚地区センター体育室において、神奈川県保育会主催の研修会が開催されました。

今回は安田式体育遊び研究所所長の居関達彦氏に「保育所等職員の健康」というテーマで講義していただきました。この研修は、サブタイトルが「年齢・発達に応じた運動遊びの理論と実践～発達過程と幼児期運動指針に沿って～」となつており、運動遊びから保育指針を学ぶという内容でした。

体力増強や機能向上を第一目的とせず、体育遊びを通して脳や全身の機能器官を育む事と、人間形成を第一の目的としている指導法です。

考案者の安田祐治先生は、体操選手で元小学校教師、教育委員会指導主事から小学校校長を3校努める。「体育遊び・運動遊び」の実践研究を積み重ね、体育の幼少連携を提唱する等、体育遊びの第一人者です。常にその時代の子どもが熱中できる体育指導案を研究し、人的環境（先生の指導力）と物的環境（体育器具）の両輪を整える事により、楽しい遊びで脳と身体を刺激し、心身共に育むことをねらいとする指導法を確立。数多くの遊具の考案設計をされました。

自の周囲环境に、之詰めても上手で、受講生の先生方は、お話しと、運動遊びに最後まで熱中していました。

安田式体育遊び指導法とは、体力増強や機能向上を第一目的とせず、体育遊びを通して脳や全身の機能器官を育む事と、人間形成を第一の目的としている指導法です。

その指導法と遊具・器具は、仲間と一緒に体感でき、繰り返し楽しめる様に構成されています。

安田式体育あそび指導法の  
三つの基本と育む力。◎仲間  
と共に認め、励まし、助け合い  
共感できる力【社会性・共感性】  
◎自ら熱中できる力【主体的・

**意欲的な心】** ◎困難に対応し  
乗り越えられる逞しさと、危  
険を回避できる力【逞しい体  
力・判断力・安全能力】

そして、一番大切な「子ども  
が熱中する十のポイント」で  
す。

①子どもたちの心拍に合う動きた  
くなる声かけをする。大きすぎ  
ぎる声、語尾を延ばし、あやし  
言葉は控える。

② 必要の充足より、満足の充足が先。

を見られない様な待ち方はさせない。

⑤遊びの発展性への期待感を演出。予測と期待を引き出す為のホップステップジャンプの法則。

⑥模倣、変身、共感、協力、

競争、達成、克服の要素を遊びに取り入れる。

⑦しつけ・ルールの伝達と、教えていくつもりの否定、訂正の違いを明確にする。

⑧並ばせ過ぎない・座らせす

保育士の健康については、股関節を柔らかくし、腰痛を防止する運動。親子でやつて楽しい、親探しゲームなどで楽しみました。

終わりに、本当に楽しく、パワフルで、全身を使い、人を引き付け、飽きさせない先生のお話しで、あつと言う間に終了の時間を迎えてしまつた研修会でした。

では、それぞれの共通点とする  
特性を学びました。

